

地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ

講座概要

【三味線とともに物語を語る「語り物」のことを「浄瑠璃」といいます。室町時代に生まれた浄瑠璃は、はじめは声と楽器による語りだけでしたが、江戸時代になると、人形や役者の芝居と結びついて、人形浄瑠璃や歌舞伎として大きく発展しました。聞いて見て楽しめる人形浄瑠璃や歌舞伎は、その後も多くの人々に愛され、全国各地で上演されてきました。群馬県はそのなかでも人形浄瑠璃や歌舞伎をもっとも愛し、大切に育ててきた地域といえ、県内各地にはいまでも多くの人形芝居や歌舞伎の座が現存しています。本講座では、そのような人形芝居の座のひとつ、尻高人形の人形浄瑠璃を紹介します。「尻高人形」は一人遣いの人形で、義太夫節に合わせて演じられますが、遣い手の両手の可動範囲が広いのが特徴で、三人遣いにも匹敵する表現力があります。講座にはワークショップもありますので、ぜひご来場のうえ、人形浄瑠璃に親しんでください。

実施責任者：教育学部音楽教育講座准教授 菅生 千穂

□講義日程

日 程		講 義 内 容	講 師
第 1 日	11 月 10 日 (日)	14:00 \$ 14:20 【レクチャー：人形浄瑠璃のたのしみ】 人形浄瑠璃の成立や発展、人形浄瑠璃を構成する「語り」「三味線」と「人形」などについてわかりやすく説明します。また、群馬県の歌舞伎や人形芝居を紹介し、上演作品について解説します。	教育学部・名誉教授 川上 晃
	14:25 \$ 16:00	【ワークショップ】 ～人形のしくみ・人形の操作 尻高人形について～ 【人形浄瑠璃公演】 「演目：伽羅先代萩 政岡忠義の段（予定）」 尻高人形芝居 錦松会（一人遣い）	尻高人形芝居 錦松会 (群馬県 高山村) 尻高人形は明治の初期に、名古屋に生まれた豊松流に属し、四代豊松伝三が直接伝授した。特徴としては、一人遣いでありながら三人で操作する文楽人形に匹敵する動きをする一人遣い人形として有名で、他の一人遣い人形より特殊性に富むものとして知られ、一名「差金人形」とよばれている。保存継承している座は錦松会、昭和30年(1955)に県指定重要無形民俗文化財、昭和53年(1978)に国選択無形民俗文化財に指定された。 (群馬県教育文化事業団HPより)